

＜北海道熊研究会 会報＞ 第66号 2017年 6月 18日

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

既報会報の1～65号はWebsiteに「北海道野生動物研究所」と入力しご覧下さい

ご意見ご連絡は本紙送信 email ではなく、下記の email へお願い致します

e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

「北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

＜母熊は一度に子を1頭から3頭出産するが、子を2頭(双子)、3頭(三つ子)産むには、交尾(5月下旬～7月上旬)後から冬籠もりに入るまでの間に、母熊が十分な栄養を摂取する事が、条件である事が、知床での5年間(2013年～2017年)の継続調査で分かりました＞

＜根拠＞

調査地(下記に記述)での河川への鱒の遡上時季は8月上中旬～10月上旬であり、鮭の遡上期は9月中旬～12月上旬である。遡上数を、目測で(多い、少ない、いないに等しい)の3段階で測り、その年に観察された母子の内、新生子(その年に生まれた子を言う)を連れている母子について、子の数を、調べた結果、鱒鮭の遡上が無に等しかった翌年は、母熊が連れている新生子の数は例外なく単子であった。逆に、鱒鮭の遡上が多かった翌年は、母熊が連れている新生子の数は単子よりも双子連れ(三つ子の場合も見られた)の場合が多く見られた。以上の知見から、子を2頭(双子)、ないし3頭(三つ子)産むには、交尾後から冬籠もりするまでの間に、母熊が十分な栄養を(当該地では鱒や鮭)摂取する事が、条件であると看取された。

従って、母熊が双子や三子を伴って居る場合には、その母熊は、交尾後、十分な養分を摂取し得た個体と断定し得るし、また、恒常的に、双子や三子を連れている母熊が居る地所は、熊にとって餌が豊かな場所であることと言えよう。

＜調査地での5ヶ年の鱒鮭の多少と、母熊が伴っていた新生子の関係(観察結果)＞

2013年度	調査開始	鱒鮭遡上が多い	新生子双子	1組
2014年度		鱒鮭遡上が多い	新生子双子	4組
2015年度		鱒鮭遡上が全く無し	新生子双子	4組
2016年度		鱒鮭遡上が多い	新生子単子のみ	3組
2017年度	未知(本年度で未調査)		新生子三つ子1組、双子1組	(6月15日時点)

<調査地の地理的概要>

調査地は、北海道東部の知床半島部である。その半島部の北側の斜里町ウトロ地区（街）から、道道と知床林道を総距離で、約 35 km 程、入った地所にある漁業番屋（19 号番屋と称する）付近から、その手前約 2.8 km の区間で、通称「ルシヤ・テッパンベツ川河口域」と称する地域で、その範囲は、知床林道が標高 20m の海岸に至った地点（西端）から、東端は 19 号番屋に至る間の海岸の潮際から山側標高 20m 迄の間で、潮際から距離にして、幅約 50m ないし 170m の範囲と、ルシヤ川の河口からその上流約 700m 迄の範囲と、テッパンベツ川の河口から上流約 650m 迄の範囲を含む、東西約 2.8km の区間と、これらの場所から眺望し得る山側斜面一帯である。

この地所は、春先から晩秋まで、熊が、主として、育子・採餌などに利用しており、特に 9 月初めから 11 月上旬の間は、鱒と鮭が、前記両河川に遡上するので、これを採食に熊が来る。但し、年により、鱒鮭が多数遡上する年があれば、全く遡上しない年もある。私は 2013 年 6 月から、現在（2017 年 6 月）に至るまで、この地域での熊に関するあらゆる事象について、調査を行っている。その一つに、河川に遡上する鱒と鮭の量と母熊が産む新生子の数（一度に産む子の数「産子数」）について、調べた結果、明らかに前記の相関性がある事が分かった

<当該地に熊が恒常的に現れる理由>

当該地域に熊が恒常的に出て来る理由は、調査の結果、①当該地には熊の食料となる餌資源がある事。②この地所での銃殺が、1989 年に 1 頭を銃殺して以来、行われていない為に、熊が当該地に対して安心感を懐いている事。③眺望が利き、熊同士の遭遇を予防し得る事。の 3 要因が満たされている為である。特に、③の要因が、当該地に、母子と当年母から自立した若熊と前年母から自立した満 2 歳代の個体が来ている主因である。

(丁)